

1 題材名「 おかいものごっこをしよう 」

2 児童について

A児とB児のコミュニケーションは、お互いに話し掛けるが、声が小さくなってしまい具体的に何と言っているのか把握できていないような様子であった。B児が一方向的に話し掛ける場面が多く、A児から話す場面はあまり見られなかったが、会う回数を重ねるごとにA児からも話し掛けるようになり、話し声も大きくなっていった。二人とも友達が話をしている自分も言いたいことがあると自分の話を始めようとしてしまうことがある。相手の話を聞くよりも自分の言いたいことを伝えたい気持ちが強い。

3 題材について

難聴児は通常学級の中で一人だけであり、他の難聴児と出会う機会は少ないと思われる。そのため、きこえの教室は他の難聴児と知り合う場の一つとなる。きこえの教室で他の難聴児と知り合い、仲良くなることで、今後学年が上がり、自身が難聴のことや補聴器のことについて同じ難聴の友達に話を聞いてもらったり、意見をもらったりすることができるようになると思われる。

本題材では、仲間作りの第一歩として、△年生のペア学習を行う。きこえの教室では定期的に全学年グループ学習や近隣学年でのグループ学習を行っている。二人の児童で学習するペア学習では児童同士のコミュニケーションをとれて、仲を深められるのではないかとと思われる。

A児は乳幼児より地域の療育施設でグループ学習を通して同じ難聴の仲間と出会っている。現在も幼少の頃からの心を通わせた関係が続いている。B児は、これまで他の難聴児と接した経験がない。難聴の友達がいないので、きこえの教室で同じ難聴の児童を出会い、補聴器や聞こえにくいことについて将来的に相談することができる関係作りをさせていきたい。そのために、まずはペア学習で同学年の児童と一緒に学習をすることで仲良くさせていきたい。

二人の興味に沿うように今回は、お買い物ごっこをテーマに学習を行う。興味関心に沿った話し合いをすることで、話したい意欲をもちながら、コミュニケーションがとれると考えた。

本題材では、まず自己紹介をして、次に担当者が用意したおかいものごっこを行った。次からは自分たちでやりたいお店を話し合う活動を行い、ペットショップを開くことに決まった。ペットショップはどのような店なのか学習をして、何の動物を売るのか、どのような商品を置くのかについて話し合い準備するものを決めてきた。本時は、店の名前や売り物の値段を決めながら、準備するものを作る活動を行う。最後の時間には、実際に保護者にも参加してもらいお買い物ごっこを行う。二人ともお客さんよりもお店屋さんの店員をやることに興味をもっているため、保護者に参加してもらうことにより、お買い物ごっこに参加する人数を増やし、児童たちの意欲をより引き出したい。

児童二人は家でペットを飼ってはいない。しかし、動物が好きなため、ペットショップを選んだ。そこで、イメージをもたせるためにペットショップ店内の写真を見せた。そのことにより、ペットショップには動物以外にも様々な商品が売られていることを知り、色んな商品を準備することに繋がった。

二人でお店を開くことを設定して、どのような店にするのか、どんな商品を作るのかなど話し合い活動をしていく。その活動を通して、自分から相手に話し掛けたり、会話のキャッチボールが続いたりするようにしていきたい。意見が出ない時には、担当者から意見を出して、その意見について二人が答えられるようにしていく。ペットショップについて話しているのに違

うお店の話題になってしまうなど違う展開になってしまった場合には、今何について話しているのかを確認して、学習を進めていくようにする。

さらに、話が伝わりやすくなるように、毎回話す時は、約束事を設定する。声を大きくする。顔や口を見せて話す。相手の話を聞いてから自分の意見を話す。これらのことに気を付けて話をするので伝わりやすくなることを実感させていきたい。

ペア学習は月一回なのでそれ以外にも交流をもち、友達に関心が向くように個別指導の中で友達に手紙を書く活動を行った。手紙の内容については、ペア学習の感想や友達に伝えたいことや聞いてみたいことを考えて書くようにした。手紙のやり取りをする中で、友達が校外学習にどこに行ったのか、休みの日に何をしていたのかなど個別指導の中で自分から話題を出すようになっており、友達に関心をもつようになっている。

4 題材の目標

- ・友達とのやり取りを楽しむことができる。
- ・友達に声を大きくしたり、顔や口を見せて話したり、友達の話を聞いてから自分の気持ちを話すことができる。

5 指導計画 「 おかいものごっこをしよう 」

時	ペア学習（☆めあて）	個別指導
1 (6月)	○自己紹介をしよう 質問をし合い、お互いのことを知る。 ☆友達に関心をもつ。	・ペア学習をすることや、そこで自己紹介を行うことを伝える。 ・教室掲示のプロフィールを見て、どんな相手かイメージをもつ。
2 (7月)	○果物屋さんごっこをしよう お買い物ごっこを通して、相手に伝わりやすい話し方を知る。 ☆お買い物ごっこを通して、声の大きさや速さに気を付けることで相手が聞き取りやすくなることが分かる。	・どんな場面で聞こえにくいかなど考える。 ・友達に手紙を書く。 (ペア学習の感想)
3 (9月)	○どんなお店屋さんにするか考えよう 自分たちがやりたいお店屋さんを決める。 準備内容 ・何のお店にするのか ・どんな商品を置くのか。 ・お店の名前 ☆自分から相手に話しかけることができる。 ☆相手に顔や口を見せて話をする事ができる。	・自分がやりたいお店を考える。 ・手紙のやり取りをする。 (夏休みの出来事について) ・友達に伝える夏の思い出話を決める。 ・補聴器をつけた感想を話し合う。(B児)
4 (10月)	○お買い物ごっこの準備をしよう。Ver.1 お店屋さんの準備をする。 準備内容 ・ペットショップがどういう場所で何	・商品（人形、写真）を準備する。 ・手紙のやり取りをする。 (校外学習に行くことについて) ・学校や家庭の出来事の中で、友達に伝える

	<p>を売っているのかについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペットショップで扱いたい動物の人数や写真を用意して見せ合い、感想を伝え合う。 ・ペットショップで扱う動物や置く商品を決める。 <p>☆開くお店のことを知り、どのような店にするのか共感する中で楽しく話し合い活動ができる。</p> <p>☆相手に分かりやすく伝えるために、声の大きさに気を付ける。</p>	<p>話を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補聴器をつけて家庭や学級でどのように聞こえたのか話し合う。(B児)
5 (11月) (本時)	<p>○お買い物ごっこの準備をしよう。Ver.2 お店屋さんの準備をする。</p> <p>準備内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お店の名前について決める。 ・お店の看板を作る。 ・作っていない商品、増やしたい商品を作る。 ・動物や作った商品の並べ方を決めていく。 <p>☆友達と話し合っって商品を作ることができる。</p> <p>☆友達の話をしっかり聞いてから自分の思いを伝えることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手紙のやり取りをする。 (校外学習で補聴器をつけるかどうかについて) (ペットショップ開店の準備の感想) ・ペットショップに置く商品を作る。 ・B児が補聴器をつけてどのように感じているか、付けていて気になることがあるか確認する。
6 (12月)	<p>○ペットショップを開店しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お買い物ごっこをする。 (保護者にお客になってもらい、お店屋さんとして活動を行う。) ・準備からペットショップ開店までの振り返りをする。 <p>☆2人で協力をしながら、お買い物ごっこをすることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・使うものの確認、準備をする。 ・手紙のやり取りをする。 (ペットショップ開店に向けての気持ち) (ペットショップ開店を終えての感想)

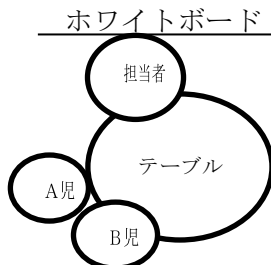
6 本時の指導

(1) 目標

- ・友達と話し合っ商品を作ることができる。
- ・友達の話をきちんと聞いてから自分の思いを伝えることができる。

(2) 展開 (5/6)

時配	学習活動と内容	○教師の支援☆評価	資料・教具
5分	<p>1 補聴器チェックをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の補聴器の電池チェックをする。 	<p>○B児が聞こえる左耳側からA児の話を聞けるように上記のように座る。</p> <p>○A児が感想を話せない時には、担当者から補聴器をつけてよかったことや困ったことはないかを質問をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・電池チェッカー ・ステジスコープ
2分	<p>2 本時で何を準備するのかについて担当者の話を聞く。</p>	<p>○本時で行うこと（店名を決める、看板を作る、商品を作る、並べ方を決める）を伝えて見通しをもたせることで、意欲を持続させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時に準備するものを書いた紙
3分	<p>3 ペットショップの開店準備をする。</p> <p>①お店の名前を決める。 A児「私の考えた〇〇がいい。」 B児「私は店の名前は△△がいい。」 A児B児「じゃあ、どっちの名前にしようか。」</p> <p>②お店の看板を作る。 B児「看板に絵を描きたい。」 A児「犬がいい。」 B児「じゃあ、私は猫の絵を描くね。文字はどっちが書くか決めよう。」 看板…画用紙にマジックで店の名前や動物の絵を描く。</p> <p>③今までに作ったものを見せ合い、本時に作る商品を確認する。 A児「Bさんの作った洋服かわいい。」 B児「ありがとう。Bさんが作った洋服もかわいいね。」</p>	<p>○二人で開くお店なので、友達の思いを聞き合いながら進められるように、友達の話を聞き取れなかった場合には、「もう一度言ってください。」「書いて教えてください。」と伝えるように声掛けをする。</p> <p>○二人の意見がぶつかったときには、なぜそうしたいのか相手に伝えるように促す。そして、どちらの意見も納得し、楽しく準備ができるような声掛けをする。</p> <p>○二人の考えが分かれて、どちらかの意見が通った場合には、友達の意見を受け入れた児童を褒め、次に決める場面があれば、受け入れた児童の方の意見を採用するように伝える。</p> <p>○二人の意見が一致した場合には「よいお店ができるね。」と声掛けをして、より意欲的に活動ができるようにする。</p> <p>○友達が話をしている時に、遮って話</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マジック ・画用紙 ・作った商品



<p>5分</p>	<p>B児「ゲージを一緒に作ろう。」 A児「洋服をもっと作りたい。」 B児「どちらからやろうか。」 A児「ゲージは一人では大変だから二人で最初にやろう。」</p> <p>④これまでに作れなかった商品や増やしたい商品を作る。できたものから並べていく。</p> <p>A児「ゲージの色はどうする？」 B児「水色がいい。二人とも好きな色だから。」</p> <p>B児「人形と服の大きさを合わせた方がいいよ。」 A児「じゃあ、一緒に作ろう。」 B児「飾りをもっとつけたいな。Aさんは、どう思う。」</p> <p><作る商品> 洋服…ビニール袋に足や首を通す穴を開ける。 ゲージ…段ボールに紙を貼る。 リード…ひもを30センチほどの長さで切る。 首輪…リボンを輪にする。 えさ…袋に絵を描く</p> <p><並べる動物> 犬、猫、ハムスター、うさぎ、はりねずみ</p> <p>4 振り返り ・次の時間の予告をする。</p>	<p>をしてしまった時は、話を止めて友達の話最後まで聞くことを促す。</p> <p>○友達の話最後まで聞いてから自分の話をする事ができた場合には褒める。</p> <p>○学年で未習のカッターを使う際には、安全面を考慮して、担当者も一緒に商品作りに参加をする。</p> <p>○二人が同じ思いや考えになり、協力して取り組みを進められた際には賞賛する。</p> <p>○本時で作ることができなかった商品については、個別の指導で行う。</p> <p>☆友達と話し合っ商品を作ることができる。 ☆友達の話きちんと聞いてから自分の思いを伝えることができる。</p> <p>○保護者も参加して、お買い物ごっこすることを伝え、意欲をもたせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・段ボール ・ビニール袋 ・リボン ・セロハンテープ ・はさみ ・カッター ・のり <p>・人形</p>
-----------	---	---	--

